

前頭葉てんかんの経過中に偽てんかん発作を呈した 患児に対するアプローチ

友納 優子 安元 佐和 井上 貴仁
二之宮信也 森島 直美 田中 美紀
調 優子 藤川 貞敏 満留 昭久

福岡大学医学部小児科学教室

要旨：てんかんの治療経過中に偽てんかん発作を合併した前頭葉てんかんを3例経験した。3例ともこれまでと異なる発作が頻回に起こるようになりコントロール不良のため入院した。発作の症状、発作時脳波より、増加した発作は偽てんかん発作と診断した。3例とも中学生で、軽度から中等度の精神遅滞があり、前頭葉てんかんであった。患児の背景把握に努めた結果、3例とも患児、家庭、学校にさまざまな問題があることが判明し、適応が困難な状況にあることがわかった。心因性の発作でも受容的に接し、家族、学校と連携し話し合いを重ね、患児、家族の心理的支援と環境整備を行うことで、偽てんかん発作の消失に至った。てんかん患者に合併する偽てんかん発作は難治性てんかんとみなされ、薬物過剰投与や、患児 家族関係の悪化により、患児の QOL が損なわれる恐れがあり、診断のみならずその後の対応が重要である。

キーワード：偽てんかん発作、前頭葉てんかん、発作時ビデオ脳波